

学位論文要旨

中国における女子の第二次性徴に関わる  
下着教育に関する研究

広島大学大学院教育学研究科

教育学習科学専攻 教科教育学分野

人間生活教育学領域

D184533 庄 莉莉

## 論文構成

### 序 章 研究の背景及び目的

#### 第1章 女子の第二次性徴に関わる下着装着及び下着教育の必要性

- 第1節 下着装着に関する基本的・基礎的知識や技能を習得する必要性
- 第2節 女子の第二次性徴期の発達の特徴及びブラジャーの役割
- 第3節 中国と日本の女性下着の普及過程及び女性における意識の変化

#### 第2章 女子の第二次性徴に関わる下着教育における家庭、学校及び社会教育の役割

- 第1節 家庭、学校及び社会教育の役割と連携・協働の意義
- 第2節 中国における家庭、学校及び社会教育の現状と課題
- 第3節 女子の第二次性徴に関わる下着教育の家庭、学校及び社会教育における位置付け

#### 第3章 日本における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

- 第1節 日本の企業による女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状
- 第2節 日本における女子の第二次性徴に関わる下着装着と下着教育に関する母娘の意識
- 第3節 日本の女子の第二次性徴に関わる下着教育における家庭、学校、社会教育の連携・協働の課題

#### 第4章 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着と家庭教育の現状と課題

- 第1節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着と下着教育に関する母娘の意識
- 第2節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着に関する母娘の意識の関係性
- 第3節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着と家庭教育の課題

#### 第5章 中国における学校と社会の女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状と課題

- 第1節 中国の学校における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状
- 第2節 中国の社会における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状
- 第3節 中国における学校と社会の女子の第二次性徴に関わる下着教育の課題

#### 第6章 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の展望

- 第1節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の改善の方向性
- 第2節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の指導内容の検討
- 第3節 中国の下着教育の意義と家庭、学校及び社会教育の協働・連携の必要性

### 終章 研究の総括と今後の課題

## 研究の背景及び目的

現在、ブラジャーは女性の生活必需品となり、第二次性徴期から生涯、毎日ブラジャーを着けている女性が多く、その装着方法が適切であるかどうかは女性の心身に大きな影響を与えている<sup>1)</sup>。ブラジャーは日常的に女性の身体にもっとも密着して装着されるが、その実態は予想外に望ましくない。中国の西南地域における女子大学生の 87.0%はブラジャーを着け始めるべき時期が分からず、74.5%はブラジャーの装着を恥ずかしい、不安だと思った経験がみられた(梁偉紅ら, 2013)<sup>2)</sup>。なお、乳房発達の起動年齢が著しく早まったという報告がみられ<sup>3)4)</sup>、年齢が低いほど、身体の変化に対応する心構えと知識が乏しいと考えられる。早い時期に乳房の発達の特徴を理解し、自分の身体の状況を把握することが必要である。また、着用目的に応じて健康で快適な下着の選択や装着ができるような下着教育の重要性が問われている。

第二次性徴に関わる下着教育の必要性和有効性は世界の多くの研究者によって検証されてきた<sup>5)6)</sup>。特に、日本の教育研究者によって多く報告され<sup>7)8)9)</sup>、日本の下着メーカーは思春期の女子と保護者を対象に下着教室を開いたり<sup>10)</sup>、学校の養護教諭に指導キットを配布したりして<sup>11)</sup>、その教育成果が評価されている<sup>12)13)</sup>。第二次性徴に関わる下着教育における家庭と学校、また学校と企業の連携・協働が有効であることが示唆されている。

そこで、本研究では、中国における女子の第二次性徴期の下着装着の現状と課題を調査によって明らかにし、中国における関連の教育を改善する必要性を追究した。また、中国の家庭、学校と社会における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状と課題を調査や文献から分析し、日本の女子の第二次性徴に関わる下着教育の展開方法に照らし、家庭、学校と社会教育の連携・協働の視点から、中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の改善に示唆を得ることを目的とした。

## 研究の方法

本研究の目的を達成するために、本論文は序章と終章を除く 6 章で構成した。

第 1 章において、下着装着に関する基本的・基礎的知識や技能を習得する必要性、女子の第二次性徴期の発達の特徴及びブラジャーの役割、中国と日本の女性下着の普及過程及び女性における意識の変化について、先行研究の成果と課題を整理した。

第 2 章において、家庭、学校及び社会教育の役割と連携・協働の意義、中国における家庭、学校及び社会教育の現状と課題、また女子の第二次性徴に関わる下着教育の家庭、学校及び社会教育における位置付けについて、先行研究の結果を整理した。

第 3 章において、日本における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状をとらえるため、まず日本の企業による下着教育の展開方法及び課題を資料分析によって整理した。また、ブラジャー装着に関わる母娘の意識とその関係性を捉えるため、日本の広島県内の県立 A 高等学校へ通う女子高校生及びその母親 170 組を対象に質問紙調査を実施した(2017 年 6 月～7 月)。調査内容は、「第二次性徴に関する内容」、「ブラジャー装着に関する内容」とそれらの「教育・学習に関する内容」の三つの内容枠から捉え、それらを、娘、母親別に、回答者の「知識・理解」、「実態・行動」、「関心・意欲」を問う枠組みに再構成し、観点別に分析を行った。また、母娘の関係性を分析するあたり、分析項目の評価点の最高得点を 10 点として選択肢ごとに得点を定め、散布図とピアソンの相関係数を用いて分析した。

第 4 章において、中国における下着装着と家庭教育の現状及び課題を捉えるため、中国福建省泉州市

の公立 Y 中等学校の高校部の女子生徒とその母親 300 組を対象に質問紙調査を実施した（2021 年 1 月）。第 3 章の日本の調査と同様に三つの内容枠から調査内容を捉え、同様の方法で得点の集計を行った。母娘の関係性を分析するにあたり、相関係数、重回帰係数を用い、母娘の点数の高低によってグループ分けし、項目相互の相関係数、また相関項目の基本データを用いて、グループ形成の要因を分析した。

第 5 章において、中国の学校と社会における第二次性徴に関わる下着教育の現状と課題を捉えるため、健康教育に関する資料分析を行った。また、乳房の発達やブラジャー装着に関する学校での指導の実態に焦点を当て、中国福建省泉州市にある小・中・高一貫の公立 Y 学校に勤務する関連教科の教師 38 人を対象に質問紙調査を実施した（2023 年 8 月）。なお、社会における下着教育の現状を明らかにするため、中国下着市場の業界報告、また下着メーカーの販売広告などによって、中国における成長期向けブラジャーの開発とその下着教育の現状と課題を探究した。さらに、市販の思春期の女子向け書籍に焦点を当て、2023 年 6 月 26 日に中国最大の書籍ネット通販サイト当当网で「青春期」と「女生」を検索語として捉え、売り上げトップ 8 の市販本を対象に内容分析を行った。

第 6 章では、第 4 章、第 5 章の中国の実態をふまえ、第 3 章における日本の調査結果を参考にして、中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の改善案を模索し、下着教育における家庭、学校、社会教育の協働の必要性を再考する。

## 研究の結果及び考察

### 第 1 章 女子の第二次性徴に関わる下着装着及び下着教育の必要性

下着は、主に保健衛生的役割を果しており、その装着における働きや素材の性能への理解、自分の身体との関係の理解が求められている。快適で自分らしい衣生活を送る基盤となる能力を身に付けるためには、自分自身の発達状況を踏まえて健康・快適・安全に対する意識をもち、下着装着に関する基本的・基礎的知識や技能を習得することが必要である。

女子の第二次性徴期において、乳房が膨らみ始めて 1~2 年後に初潮が訪れ、約 4 年間をかけて成長する<sup>14)</sup>。また、成長期の乳房はかたちやかたさが大人と異なるという特徴があり、成長期向けのブラジャーが求められる。ブラジャーの装着には、物理的、生理的、心理的効果が挙げられる<sup>8)15)</sup>。そのほか、第二次性徴期において、成長する乳房を守る役割を果たす<sup>16)</sup>。乳房発達のプロセスに応じて適切なブラジャーを選択し着用することが重要であり、第二次性徴に関わる下着教育が必要とされる。

洋服やブラジャーが受け入れられたのは、日本では第二次世界大戦後、女性の社会進出の増加に伴ったのに対し、中国では、ブラジャーが本格的に普及し始めたのは 1980 年代からであった。しかし両国ともにブラジャーが正しく装着されておらず、成長期におけるブラジャー装着への注目度が低かった。一方、日本の下着メーカーは、戦後から積極的に下着ショーや下着教室などの啓蒙活動を行い、さらに、21 世紀に入って成長期向けのブラジャーの開発や教育支援にも力を入れており、評価されている<sup>12)13)</sup>。このことから、第二次性徴に関わる下着教育における企業と学校、企業と保護者の連携・協働が有効であると考えられ、中国の第二次性徴に関わる下着教育の改善に有益な示唆が得られる可能性を認識した。

### 第 2 章 女子の第二次性徴に関わる下着教育における家庭、学校及び社会教育の役割

教育には意識的計画的学校教育、また無意識的無計画的な社会教育と家庭教育がある。三つの教育がそれぞれ独自の役割を果たしている一方、それぞれの課題も抱えている。田井らは、親としての教育意識の変化による家庭の教育力の低下が多くの教育課題の根本的原因となっていると指摘している<sup>17)</sup>。本来

の家庭の教育力を取り戻し、教育の諸問題を解決するには、学校や社会がもつ教育力と統合させ、相互補助を行うことが求められる。

中国において、1990年代以来、“応試教育”（受験戦争）の影響により、子どもの健全な自我が崩壊する危険に晒されている。2001年、学校教育の果たす役割が見直され、子どもの徳・知・体・美・労の総合的素質を高める「素質教育」<sup>18)</sup>が導入された。一方、近年、学校教育が過大な責任を負うようになり、家庭教育は学校の延長の形を担い、社会教育には体系性が欠けているという三者のバランスが崩れていることが問題視されてきた。中国教育部は2023年に、「家校社協同育人（家庭と学校及び社会が協働して人を育成する）」の重要性を強調し、その実現のための体制づくりを推進している<sup>19)</sup>。「素質教育」の改革の中で、児童生徒の健康的素質を高めることが学校教育の基本目標の一つとして掲げられ、健康教育が推進されることとなった<sup>20)</sup>。健康教育では、思春期における心身の変化について小・中学校の段階別に学習目標と学習内容が明確に定められており、その中には適切なブラジャーを選択し、正しく着けることが中学校段階の学習内容として示されている。しかし、中国における女子のブラジャーの望ましくない装着状況<sup>2)</sup>と児童生徒の第二次性徴に関する知識欠如の問題が多く<sup>21)</sup> <sup>22)</sup>、調査によって指摘され、教育成果がみられないことが推察される。健康教育における家庭、学校及び社会教育による三者連携の重要性が多く<sup>2)</sup>の研究で支持されている一方、具体的連携方法の探究が課題となっている。

第二次性徴に関わる下着教育は女子の思春期に関わる健康教育の一環として、家庭教育を中心に、学校教育を基盤とし、社会教育の情報提供を得ながら、第二次性徴に関わる下着教育の推進と家庭、学校と社会教育の連携・協働を試みることは価値があると考えられる。

### 第3章 日本における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

日本の下着メーカーのワコール（株）とグンゼ（株）は両社とも科学的な根拠に基づいて、成長期向けブラジャーの開発を行っている。なお、ワコール（株）は2001年から「ツボミスクール」という出前下着教室を開催し、小学生、中学生、保護者、養護教諭の4つのコースを設けている<sup>10)</sup>。また、2021年10月から「ツボミスクール」のオンライン型と学ブラのオンライン講座を増設し、親子同席の親子コースも開始した。個人や学校に向けて多様な連携方法を発信している中、母娘が交流できる情報共有の場所づくりに力を入れている<sup>12)</sup>。グンゼ（株）は思春期の女子及びその保護者、養護教諭を対象とした出前教室を行っており、学校との連携事例が多く報告され、学校保健委員会に参画し保護者と連携するという三者連携の事例もみられた<sup>11)</sup>。また、グンゼ（株）は年間100校以上の養護教諭に「下着指導キット」という下着指導のための教材や資料を配布しており、学校経由による保護者への情報提供も重視している。学校との連携の中で、主に養護教諭が学校の実態に応じて、下着出前教室を申し込んだり、提供された教材で指導を行ったりしていることから、学校における養護教諭のような専任教師の設置が重要であるという示唆が得られた。

下着メーカーが行っている下着教育においては、思春期の女子に限らず、保護者への情報提供も重視されていることが分かった。日本の思春期の女子はブラジャー装着に関してどのような意識をもっているのか、日本の母親はどのような役割を果たしているのかを捉えるため、質問紙調査によって分析を行った。その結果、乳房の発達やブラジャー装着についての日本の女子高校生の知識・理解度は低く、実態・行動も望ましくない実態がみられた。一方、半数ほどの母親は月経や乳房の発達及びブラジャーについて娘と話し合っておらず、成長期向けのブラジャーに関する知識や情報について不安を感じている母親も多かった（64.1%）。乳房発達やブラジャー装着についての母娘のコミュニケーションが不足して

いることと、母親の知識情報が欠如していることが明らかになった。意欲・関心に関して、80%近くの母親と半数ほどの女子高校生はブラジャーの着用や選び方を学校で教えてほしいと答え、学校教育における系統的科学的学習を望んでいることが示された。

散布図を用いて回帰分析で検討したところ、知識・理解及び関心・意欲においては、母親と娘との関係性がみられなかったが、母親の実態や行動と娘の実態や行動には相関がみられた ( $r^2=0.179$ ,  $p<0.01$ )。乳房発達やブラジャー装着についての母娘のコミュニケーションが不足しているとしても、日本の女子高校生は母親のブラジャー装着についての日常行動から大きな影響を受けており、母親は重要な役割を果たしていることが確認できた。第二性徴に関わる下着教育において、家庭教育は中心的位置にあるべきだと考えられる。

#### 第4章 中国における女子の第二性徴に関わる下着装着と家庭教育の現状と課題

中国の思春期における女子の第二性徴に関わる下着装着の意識及び母親の役割について、質問紙調査によって検討した。その結果、中国の女子高校生の下着装着に関する知識・理解は十分ではないことが明らかになった。また、実態・行動に関して、半数近く(44.7%)の女子高校生は乳房の膨らみを意識しないままこの時期を迎えており73.7%の女子高校生は自分のブラジャーのサイズが分からなかった。また、現時点で乳房の発達またはブラジャー装着について、困っている女子高校生はそれぞれ86.0%と59.2%に至った。一方、半数近くの女子生徒(44.7%)は月経や乳房の変化及びブラジャーについて身近な女性やその他の家族と相談しない状態であることが明らかになった。関心・意欲に関して、乳房発達とブラジャーへの学習意欲を示した女子高校生は84.2%であった。学校で教えてほしいと思う女子高校生は68.0%であった。多くの女子高校生は乳房の発達やブラジャー装着について関心をもっており、ブラジャー装着に関する家庭教育や学校教育の乏しさを感じ、家庭、学校や社会教育の連携による系統的科学的学習を望んでいることが明らかになった。

一方、約1/4の母親(27.2%)が娘の乳房発達の大切な時期に気づいていなかったことが明らかになった。また、ブラジャーについて娘に教えるべき6つの事項について、娘に教えた数は3つ未満の母親は55.9%で半数を超えた。67.1%の母親は自分の成長期向けのブラジャーに関する知識や情報について不安を感じていた。関心・意欲に関して、9割の母親は乳房発達とブラジャーについてもっと知りたいと考えており(89.9%)、学校で娘にブラジャーの着用や選び方を教えてほしいと回答した(92.1%)。母親の方が娘に学校でそれらについて学ばせたいと考えていることが明らかになった。

母娘の意識の関係性を重回帰係数で検討した結果、第二性徴に関わる下着装着に関する母親の知識・理解( $t=4.17$ ,  $p<0.001$ )、実態・行動( $t=3.27$ ,  $p<0.01$ )及び関心・意欲( $t=2.29$ ,  $p<0.05$ )のいずれも娘に影響を与えていることが明らかになり、その中でも、母親のブラジャー装着に関する知識・理解が最も強い影響を及ぼしていることが確認できた。また、得点平均値の中央値を基準として、A「母高—娘高群」、B「母高—娘低群」、C「母低—娘低群」、D「母低—娘高群」の4つのグループに分けて分析した結果、母親の下着教育の実態・行動に関する3つの項目(項目22:月経や乳房の変化及びブラジャーについて娘との相談頻度、項目25:ブラジャーについて娘に教えたこと、項目26:母親が持っている知識・情報)において、項目22のみ群間に有意な差がみられた( $p<0.001$ )。グループ別の項目回答率から、ブラジャー装着に関する意識の高い母親は、娘とブラジャー装着に関するコミュニケーションをより多くとっていることがわかった。B群では、母親は娘とコミュニケーションを交わしており、ブラジャー装着に関して正しい知識・情報をもっているにも関わらず、娘の得点は低い状況であっ

た。従って、この母親たちの伝え方が適切でなかったのではないかと推測する。

以上のことから、中国の女子の第二次性徴に関わる下着装着の実態は望ましい状況ではないことが明らかになり、下着教育の必要性が検証できた。娘の下着教育において、中国の母親も重要な役割を果たしていることが確認されたが、母親の知識情報の欠如や娘とのコミュニケーション不足、また指導内容や指導方法が妥当でないことが課題として挙げられた。ブラジャー装着に関する家庭の教育力を高めるには、学校及び下着メーカーなどが、母親に正しい知識や情報を提供し適切な指導方法を伝えるとともに、母娘のコミュニケーションの機会や場を設けることが必要と考える。

## 第5章 中国における学校と社会の女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状と課題

健康教育における「成長発達と思春期保健」領域には膨大な内容が含まれており、乳房の発達やブラジャー装着に関する内容は、そのうちの4つの「二級目標内容」と関わっており、『体育と健康』のほか、小学校の『科学』と中学校の『生物学』が関連教科である。健康教育に関する基本認識に関して、半数ほどの教師は、健康教育と指導綱要の内容、また学校で女子児童生徒を対象に定期的に行われた思春期に関わる健康教育の講演の内容の詳細を知らなかった。学校で女子の第二次性徴と適切なブラジャーの選択や着用について教えることを、95.6%の教師が必要と考えていたが、乳房の発達とブラジャーの選択や装着に関する内容を担当する教科の授業で指導を行った教師は、それぞれ13.8%、6.9%と少なかった。乳房の発達に関する指導をするにあたり、自分に「あまり知識がない」、「知識がない」と回答した教師は合わせて68.9%であった。また、ブラジャーの選択や装着に関して、十分な知識をもっていないと思う教師は79.3%であった。

中国において、乳房の発達のプロセスに応じた成長期向けのブラジャーは2018年までにほとんどみられなかった。2019年女性下着メーカー都市麗人は、乳房発達の3つのステージに応じた「少女文胸（少女ブラジャー）」の販売を始めた<sup>23)</sup>。その後、成長期向けのブラジャーを指す「少女文胸」という言葉が定着し、「少女文胸」を生産販売するメーカーが多くみられるようになった。これらのメーカーのネット通販ホームページには、成長期向けのブラジャーの特徴や機能を紹介するとともに、ブラジャーの選択基準として乳房発達のプロセスについても紹介し発信しているが、日本のワコール（株）やグンゼ（株）のような下着教育を行う企業はみられなかった。

他方、女子向けの思春期に関わる健康教育に関する市販本はいずれも重版されており、利用率が高いと推測できた。乳房発達やブラジャー装着について伝えるべきと思われる15の内容について、半数以上の項目に言及した本が1冊のみで、ほとんど言及していない本が2冊みられた。乳房発達のプロセスと特徴を紹介した本は半数に留まり、ブラジャーの役割や着ける意義を紹介した本は2冊のみであった。ブラジャーを着け始めるべき時期について、3冊で述べられているが、基準がそれぞれ異なった。また、乳房発達の過程に応じた成長期向けのブラジャーの選択を紹介した本は1冊もみられなかった。思春期に関わる健康教育の著書においても、女子の乳房発達やブラジャー装着については重視されていない現状が見られた。

以上のことから、学校教育において、教師の健康教育に関する意識が低いことが課題として捉えられた。また、社会教育としては、女子の第二次性徴に関わる下着教育への注目度が低かった実態がみられた。学校教育においては健康や下着などの関連内容に関わる教師の意識を高め、下着メーカーなどが下着教育に対して社会からの注目を集める工夫を行うことが課題である。

## 第6章 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の展望

第3章の示唆と第4章、第5章の結果分析及び考察から、中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育において、学校は主導的役割を担い、関連教科の担当教師の意識を高めるほか、成長期向けのブラジャーを開発販売している信頼できる下着メーカーに依頼して講座を開設することが望ましい。小学校5年の新学期の始めに、健康診断時に女子を先に終わらせ、母親同席のもとに下着教育の授業に参加することが理想ではないかと考えている。なお、女子の思春期に求められる身体の発達や下着についての基礎的な事項を、乳房発達に関する内容、ブラジャー装着に関する内容と支援を求める方法で計15項目にまとめた。

女子の第二次性徴に関わる下着教育の意義を再考すると、第二次性徴に関わる下着教育は、①衣生活における自立能力の育成に不可欠である、②乳房の膨らみ始める時期は基礎的性教育の貴重な時期となり、女の子から女性への変化を意識させ、自分の身体を保護する自立自愛の性意識を育成するよい機会になる、③望ましくないブラジャーの装着実態や家庭での下着教育の希薄さの中で、第二次性徴に関わる下着教育への支援が必要であると考えられる。なお、第二次性徴に関わる下着教育における家庭、学校及び社会教育連携・協働の必要性については、①娘の心身発達を注目することを通して、母親の家庭教育への意識を高め、親としての責任を自覚する有効な機会となる、②教師として児童生徒の総合的発達及び成長を常に意識し、健康教育に対する認識を深め、自らの教育意識の転換を促す、③教育に関与する企業の社会的責任を呼び起こし、社会教育体系の健全化に貢献することができる。

### 今後の課題

本研究では、中国の第二次性徴に関わる下着教育において、母親が重要な役割を果たしており、家庭教育が中心的役割を担っていることが明らかになった。しかしながら、思春期の娘への健康教育に関する母親の意識や行動をさらに文献や調査によって追究することが必要である。また、現代の中国社会における母娘関係の実態の分析も必要である。それらを明らかにすることによって、女子の思春期に関する健康教育の在り方に対する具体的な示唆を得られるものと考えられる。また、母娘のコミュニケーションや相互理解は下着教育を推進する鍵であるが、身体や性について話しづらい保守的な性観念がまだ多くの家庭に残っていることが確認でき、この課題の背景を追究することも必要である。さらに、母娘のコミュニケーションを促すために、下着教育に関わるパンフレットを作成し、母親の意識を高めることも効果的である。

また、第二次性徴に関わる下着教育の発展のためには、家庭教育を中心に、学校教育を基盤として、社会からの情報提供も取り入れたシステムが必要である。しかしながら、情報提供側にある中国の下着メーカーの成長期向けブラジャーの開発販売に関する追究が不足していた。今後は、学校との有効な連携に役立つ企業選別のために、信頼できる情報を収集し、企業の社会的責任感の醸成を促す工夫が必要と考える。本研究で提案した家庭、学校、企業の三者連携による下着教育の改善案を実践し、その教育内容と指導方法を検討し、教育効果と課題を探究することを今後の課題としたい。



## 〈引用・参考文献〉

- 1) Burnett E.; White J.; Scurr J.. The influence of the breast on physical activity participation in females. *J Phys Act Heal*. 2015, Vol.12, pp.588–594.
- 2) 梁偉紅, 方方, 趙想瑞. 西南地区女大学生文胸認知及其致因分析, *紡績学報*. 2013, Vol.34, No.4, pp.117-121.
- 3) 羅交, 陳燕容, 段若男, 成果. 女孩青春期启动及发育趋势分析, *衛生研究*. 2015, Vol.44, No.6, pp.1013-1046.
- 4) Lise Aksglaede, Kaspar Sørensen, Jørgen H. Petersen, Niels E. Skakkebaek, Anders Juul. Recent Decline in Age at Breast Development: The Copenhagen Puberty Study. *PEDIATRICS*. 2009, Vol.123, No.5, pp.933-939.
- 5) McGhee Deirdre E.; Steele Julie R.; Munro Bridget J.. Education improves bra knowledge and fit, and level of breast support in adolescent female athletes: a cluster-randomised trial. *Journal of Physiotherapy*. 2010, Vol.56, No.1, pp.19-24.
- 6) Atefeh Omrani, Joanna Wakefield-Scurr, Jenny Smith, Ross Wadey, Nicola Brown. Breast Education Improves Adolescent Girls' Breast Knowledge, Attitudes to Breasts and Engagement With Positive Breast Habits. *Frontiers in Public Health*. 2020, Vol.8, Article 591927.
- 7) 山田智子, 安田晴美, 伊藤紀子. 家庭科「衣生活」領域の指導内容に関する基礎的研究—若年層における下着の着用形態について—, *鳥取大学教育学部研究報告, 教育科学*. 1995, Vol.37, No.1, pp.79-88.
- 8) 佐野史子, 鈴木あゆ子. 山平トモ. 小学校女児のブラジャー着装に関する一考察. *千葉大学教育学部研究紀要III, 自然科学編*. 1997, No.44, pp.165-175.
- 9) 福本富美子. 下着装着傾向と学校における下着教育, *日本衣服学会誌*. 1998, Vol.41, No.2, pp.1-5.
- 10) ワコール株式会社. ワコールの出前教室・ツボミスクール, *ワコールツボミスクールホームページ* (参照 2023-7-4).
- 11) グンゼ株式会社. グンゼ「下着指導キット」モニター募集, *教育家庭新聞報, 健康・環境, 下着指導*. <http://www.kknews.co.jp/monitor/gunzeindex.html> (参照 2023-7-4).
- 12) ワコール株式会社. 開催実績, *ワコールツボミスクールホームページ* (参照 2023-7-4).
- 13) グンゼ株式会社. 下着指導モニターの声 (実践報告), *教育家庭新聞報, 健康・環境, 下着指導*. [http://www.kknews.co.jp/monitor/gunze\\_mo.html#aa](http://www.kknews.co.jp/monitor/gunze_mo.html#aa) (参照 2023-7-4).
- 14) ワコール人間科学研究所. 子どものバストの成長変化の法則, 2012, <https://www.wacoal.jp/hsrc/publication/2012/index.html> (参照 2023-11-4).
- 15) 中野広. 『おもしろ下着学 日本一』, 凸版印刷. 1985, p.48.
- 16) ワコール株式会社. ブラを着ける理由は大人とまったく違う. <https://www.wacoal.jp/advice/contents/post-39.html> (参照 2023-7-4).
- 17) 田井康雄, 谷村千絵, 藤川信夫ら. 『人間と教育を考える』, 学術図書出版社. 2003, p.12.
- 18) 中華人民共和国教育部. 基础教育课程改革纲要 (试行), *中華人民共和国中央人民政府ホームページ*. 2001-6-8.
- 19) 中華人民共和国教育部. 教育部等十三部门关于健全学校家庭社会协同育人机制的意见, *中華人民共*

和国中央人民政府ホームページ, 2023-1-13.

- 20) 中華人民共和国教育部. 中小学健康教育指導綱要, 中華人民共和国中央人民政府ホームページ, 2008-12-01.
- 21) 馮秀娟, 趙慧貞. 对中小學生青春性教育的認識与思考, 深圳中医結合雜誌. 2016, Vol.26, No.11, pp.195-196.
- 22) 姜学文, 云青萍, 紀穎, 何欢, 常春. 农村地区小学生青春期知识知晓水平及影响因素, 中国学校卫生. 2019, Vol.40, No.03, pp.347-349.
- 23) 都市丽人. 少女内衣—成长三步曲 青春同龄不同样 .2019-9-16.  
[https://www.sohu.com/a/341194496\\_120189956](https://www.sohu.com/a/341194496_120189956) (参照 2023-7-7).